

原木シイタケの収穫体験 肉厚の身は格別の味

ゴールデンウィークも中盤に差し掛かった5月3日、シイタケ狩り体験会が行われました。体験会は、荒川区のシイタケ生産者である芳賀隆^{たかし}さんのほだ場（宮古市内）で行われ、町内外から32人が参加しました。ほだ場に約20万本のほだ木が整然と並ぶさまは、まさに圧巻。参加者は、7リットルバケツいっぱい収穫できる体験や、干しシイタケのつかみ取りなどのイベントを楽しみました。また、収穫後には、バーベキューが行われ、新鮮で肉厚なシイタケに舌鼓を打ち、シイタケ三昧の一日となりました。



美しい山田湾を守るために 間木戸の終末処理場が完成

4月27日、公共下水道終末処理場クリエイトピュアやまだの通水式が行われました。式には40人が出席。佐藤信逸町長は「施設の稼働により、地域住民の生活環境の改善のみならず、山田湾の海産物のブランド力の向上、水産業の発展に寄与する」とあいさつしました。総事業費22億4740万円で完成した同施設は、本町の山田、織笠地区を処理対象地域とし、1日に4010人分に当たる1600立方メートルの汚水処理を可能としています。処理水は紫外線滅菌で消毒され、間木戸川に放流されます。

平安荘で100歳を祝う会開催 佐藤町長が長寿を祝福

5月22日、特別養護老人ホーム平安荘で100歳を祝う会が行われました。この日の主役は、石川ヨシさん（大正6年5月15日生まれ）と中村ミヤさん（大正6年5月22日生まれ）。同施設の職員と入居者の皆さんが2人の長寿を祝いました。式では、佐藤町長が「これからも長生きして、町の復興を見届けてほしい。本日はおめでとうございます」と、2人に長寿祝い金を手渡しました。その後は、参加者に手作りのお菓子とお茶が振る舞われ、会場は笑顔であふれていました。

◎家族を支えてこられた石川さん

石川さんは宮古市鎌ヶ崎の出身で、若い頃は田老鉾山で働いていたそうです。閉山後は、家族と豊間根に引っ越し、林業や漁業を手伝いながら家族を支えてこられました。

◎自然食が好きな中村さん

中村さんは大沢生まれ。日がある内は農業に精を出す毎日だったそうです。歌が上手で、老人クラブではリクエストされるほど。自然食を好み、焼酎漬を何十種類も手作りしていました。



石川ヨシさん



中村ミヤさん



町のあたり

今月の題字 佐々木 仁君 (船越小4年)



晴天の下で海の恵みを堪能 カキ祭り盛大に開催される

4月29日、山田魚市場で「三陸山田カキまつり」が開催されました。旬のカキを堪能できるこのイベント。会場では、海の幸の販売や「カキ・ホタテすくい」が行われ、活気に包まれていました。一方、外に設置されたバーベキューコーナーでは、多くの人が晴天の下、買ったばかりの食材を堪能。さらに、ことしは地元漁師の皆さんが案内する養殖いかだ見学も実施され、北上市から訪れた沖野陽菜さん(小学3年)は「初めて船に乗りました。実際にカキを育てている所を見ることができて、勉強になりました」と、笑顔を見せました。



4年後にまた会おうね！ 町内小学生がサケ稚魚放流

4月27日、織笠川でサケ稚魚放流会が行われました。今回参加したのは町内全ての小学校の1・2・3年生129人。同放流会は、子どもたちにサケ資源の大切さを知ってもらおうと行われているもので、この日は稚魚1万5千匹を放流。参加した児童は「元気に帰ってきてね」「また会おうね」と声を掛けながら稚魚を見送りました。放流後、生駒利治さん(三陸やまだ漁業協同組合・代表理事組合長)が、「4年後たくさんのサケが戻ってくるよう、川をきれいにしていきましょう」と呼びかけると、児童たちは「はい」と元気に返事をしていました。

